

外国人世帯の自治会加入に関するアンケート調査  
定住外国人の地域交流に関するアンケート調査

報告書

---

平成24年7月

特定非営利活動法人ブラジル友の会・古井地区多文化共生推進座談会

美濃加茂市市民協働部地域振興課

# 目次

---

調査の概要	3
-------	---

---

## 1 外国人世帯の自治会加入に関するアンケート調査

調査結果【要約】	4
----------	---

### 調査結果

1) 貴自治会の地域の中では、外国人とどの程度の交流がありますか	5
2) 貴自治会に加入している外国人世帯はありますか	5
3) 貴自治会に加入している（していた）外国人世帯について	
【世帯数】	6
【国籍】	6
【日本語能力】	7
4) 今後の貴自治会への外国人世帯の加入について	7
5) 外国人が自治会加入を希望した場合に貴自治会でできる対応について	8
6) 外国人の自治会加入について何が一番問題だと思えますか	8
7) 自治会加入の説明時に通訳を派遣するサービスについて	9

---

## 2 定住外国人の地域交流に関するアンケート調査

調査結果【要約】	10
----------	----

## 調査結果

1) 国籍について	11
2) 在留資格について	12
3) 美濃加茂市在住年数について	13
4) 日本語の能力について	
【聞く】	14
【話す】	15
【読む】	16
【書く】	17
5) 家族構成について	18
6) 住んでいる家のタイプについて	19
7) 自治会や子ども会への加入状況について	20
8) 自治会や子ども会に加入していない理由について	20
9) 自治会や子ども会の説明について	21
10) 日本での永住希望について	22
11) 地域交流に対する考え方について	23

---

## 調査の概要

### (1) 調査の対象

美濃加茂市の中でも外国人市民の割合が最も高い※古井地区57自治会の自治会長及び同地区の古井小学校や古井第1、第2保育園に子どもを通わせている外国人世帯94世帯を対象とした。

※平成24年7月1日現在の美濃加茂市の外国人登録者数割合は8.7%。古井地区は、13.8%。

### (2) 調査の方法

#### 外国人世帯の自治会加入に関するアンケート調査

古井地区連区長会議にて調査の趣旨説明を行い、古井地区自治会長にアンケート用紙を配布し郵送などにより回収した。

#### 定住外国人の地域交流に関するアンケート調査

古井小学校や古井第1、第2保育園を通じて外国人児童の保護者にアンケート用紙の配布と回収を行った。

### (3) 調査時期

平成24年7月1日～7月13日

### (4) 調査票回収結果

調査名	外国人世帯の自治会加入	定住外国人の地域交流
配布数	57自治会	94世帯
回収数	52自治会	66世帯
回収率	91.2%	70.2%

### (5) 注意事項

本調査は、美濃加茂市がNPO法人ブラジル友の会に委託して実施する定住外国人自治会加入促進事業の一環で行う調査であり、比較的地域社会との関わりがあると思われる外国人世帯や、外国人市民の居住割合が高い地区の自治会を調査対象としていることから、ここで分析する結果は市内全体の外国人世帯と自治会との関係を表すものではないことに注意願いたい。

# 1 外国人世帯の自治会加入に関するアンケート調査

## 調査結果【要約】

平成24年7月1日現在の古井地区における外国人世帯数1,184世帯に対し、今回調査結果による自治会加入世帯数は43世帯※（加入率3.6%）と外国人の自治会加入率の低さを改めて確認する結果となった。

古井地区57自治会のうち、外国人世帯を受け入れたことのある自治会数は11自治会で、ほとんどがブラジル人世帯であった。

自治会に加入している外国人の日本語能力については、「簡単な会話なら話せる」という回答が多かったが、「ほとんど話せない」という場合もあった。

外国人世帯の自治会加入に対する意識については、「積極的に加入してもらいたい」や「希望があれば加入してもらってもよい」などと回答した自治会が33自治会と多く、「できれば加入してほしくない」と回答した自治会は皆無であった。

しかしながら、外国人世帯が実際に自治会に加入した場合にできる自治会対応については、「地域に通訳を頼める外国人がいるので、加入時も加入後も自治会で対応できる」と回答した自治会がある一方で、「日本語がわからない人は、加入後の対応に困るので加入を推奨しない」や「前例がなく、よくわからない」という回答も60%以上あり、現実的な受け入れ態勢が整っている自治会は、まだまだ少ない。

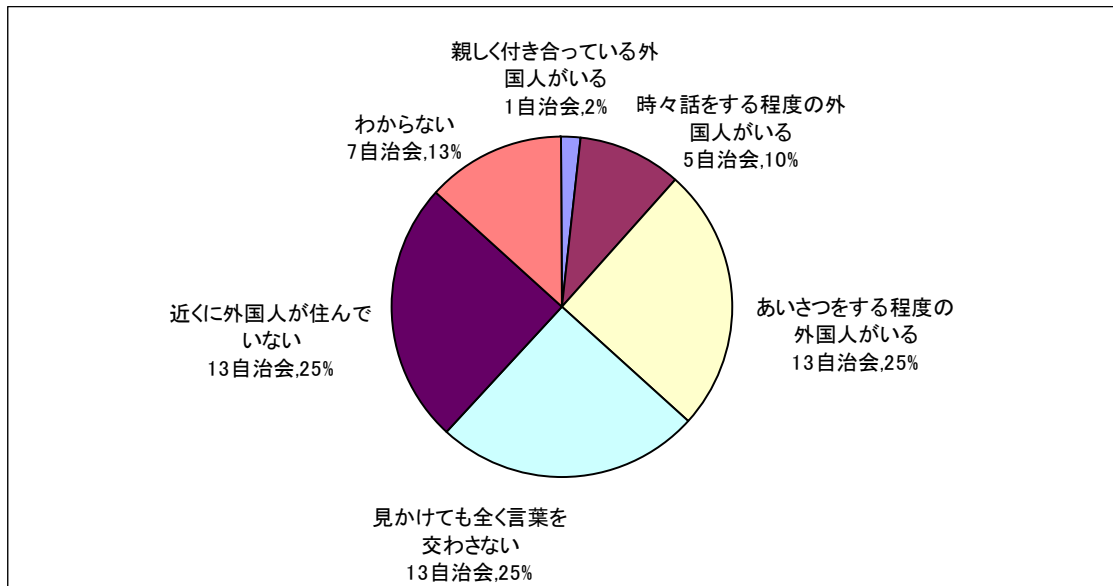
外国人の自治会加入に障害となる要因については、「言葉の問題」という回答が29自治会と最も多く、次いで「外国人の考え方」や自治会規約などの「制度の問題」と続き、日本人側の「心の問題」を選択した自治会は皆無であった。

外国人の自治会加入時に行政から通訳を派遣するサービスについては、「加入時の通訳だけではあまり意味がないので、あっても利用しない」とする自治会もあったが、「サービスがあれば、ぜひ利用したい」や「今後、必要になる時があるかもしれないので、あった方がよい」と回答した自治会が約70%に達した。

※43世帯の中には、住人が自動的に加入扱いとなる集合住宅の1自治会に加入している25世帯が含まれている。

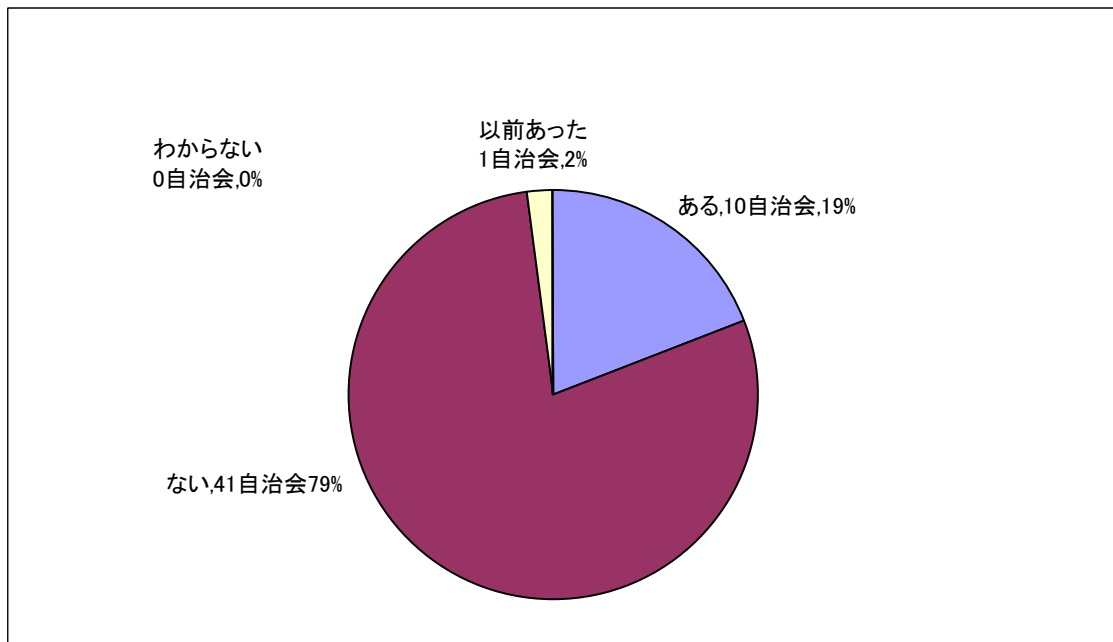
**調査結果**※四捨五入や複数回答により合計が 100%を超える場合があります。

**1) 貴自治会の地域の中では、外国人とどの程度の交流がありますか**



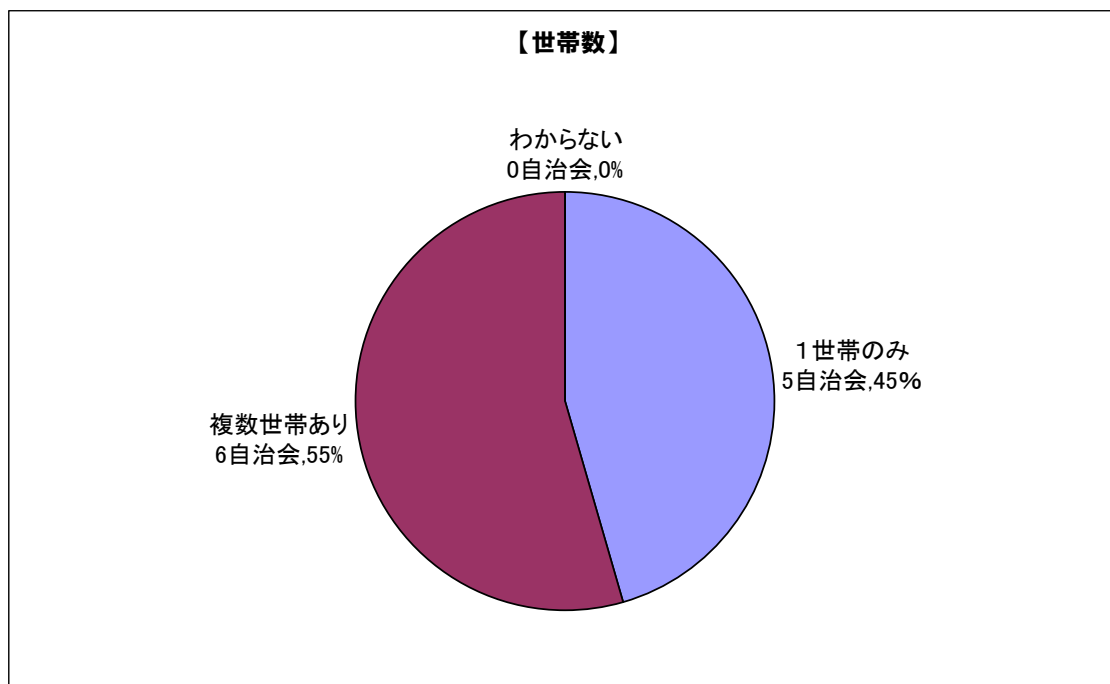
「(外国人を) 見かけても全く言葉を交わさない」という回答が 25%であることに対し、「親しく付き合っている外国人がいる」や「時々話をする程度の外国人がいる」など地域の外国人市民との交流が見られると回答した自治会は 37%である。

**2) 貴自治会に加入している外国人世帯はありますか**

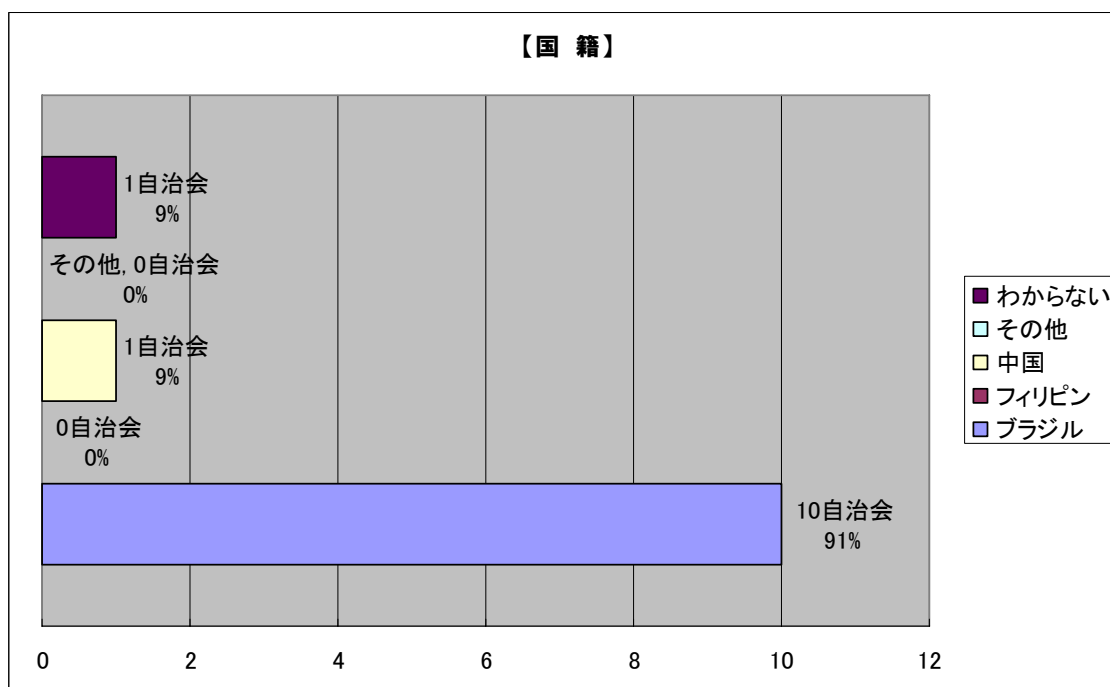


調査時点において外国人世帯の加入がある自治会は 10自治会で全体の 19%。過去に加入実績があるのは 1自治会で、残る 41自治会においては外国人世帯の自治会加入実績はなかった。

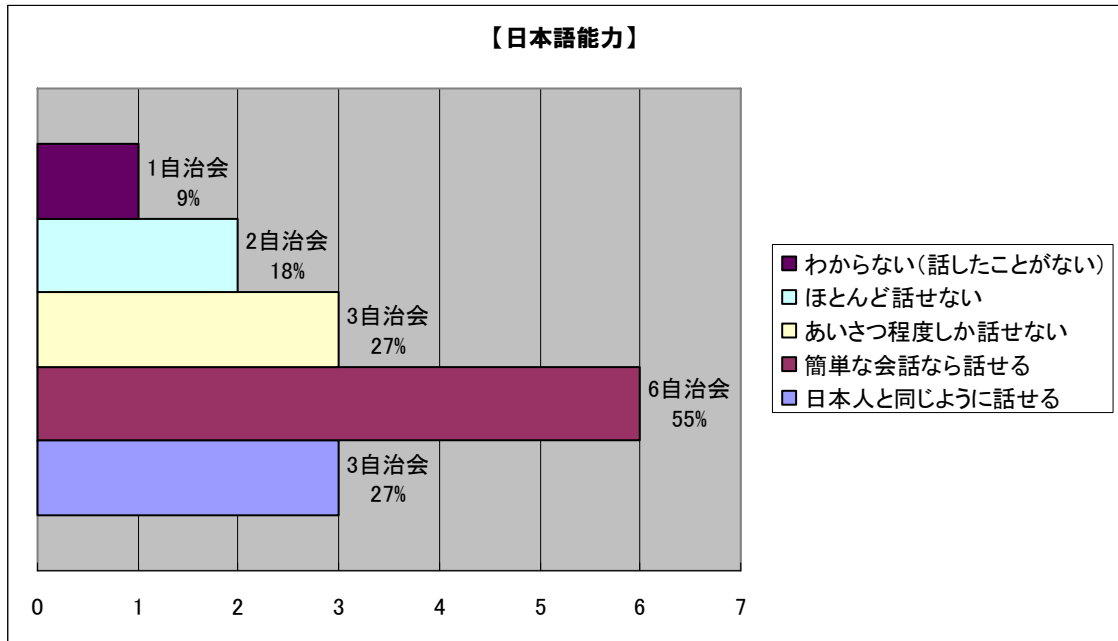
### 3) 貴自治会に加入している（していた）外国人世帯について



外国人世帯の加入実績のある11自治会のうち複数世帯が加入している自治会の内訳は、2世帯が1自治会、3世帯が4自治会、25世帯が1自治会である。古井地区全体で44世帯の加入実績があり、現在は43世帯が加入している。平成24年7月1日現在の古井地区の外国人世帯数は1,184世帯なので、同地区における外国人世帯の自治会加入率は3.6%である。

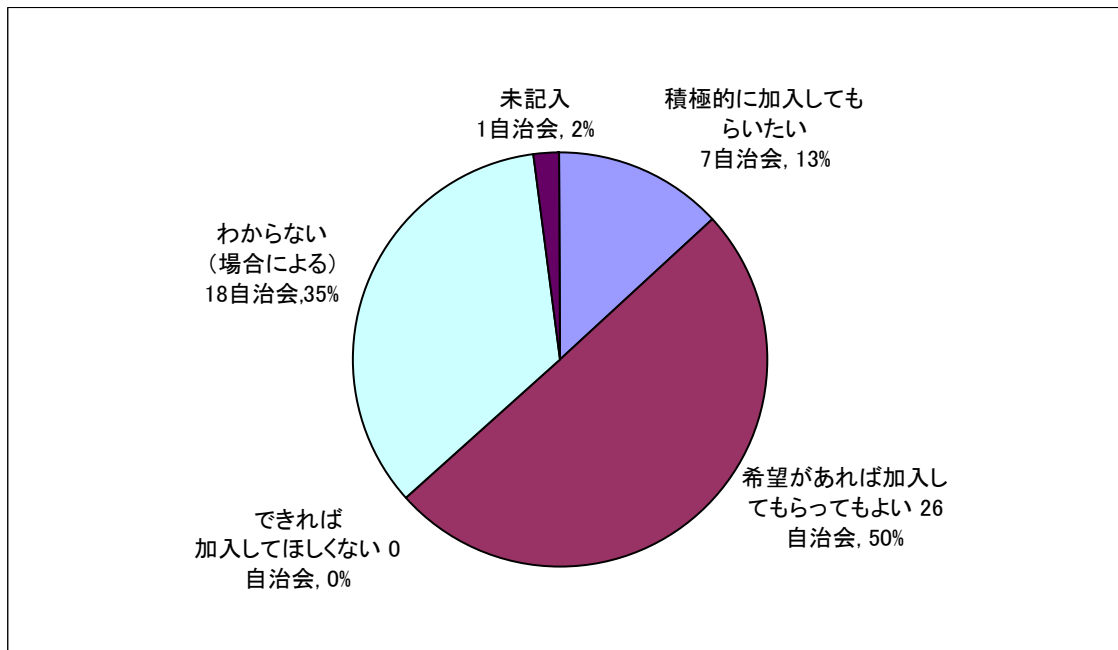


外国人世帯の加入実績のある11自治会の外国人世帯の国籍については、ブラジル人世帯が10自治会で最も多く、中国人世帯が1自治会、その他が1自治会であった。



自治会に加入している外国人世帯の日本語能力は、「簡単な会話なら話せる」というケースが多いが、複数世帯の加入がある自治会及び1世帯のみの加入がある自治会の両方において、「ほとんど話せない」という外国人世帯の加入実績もあった。

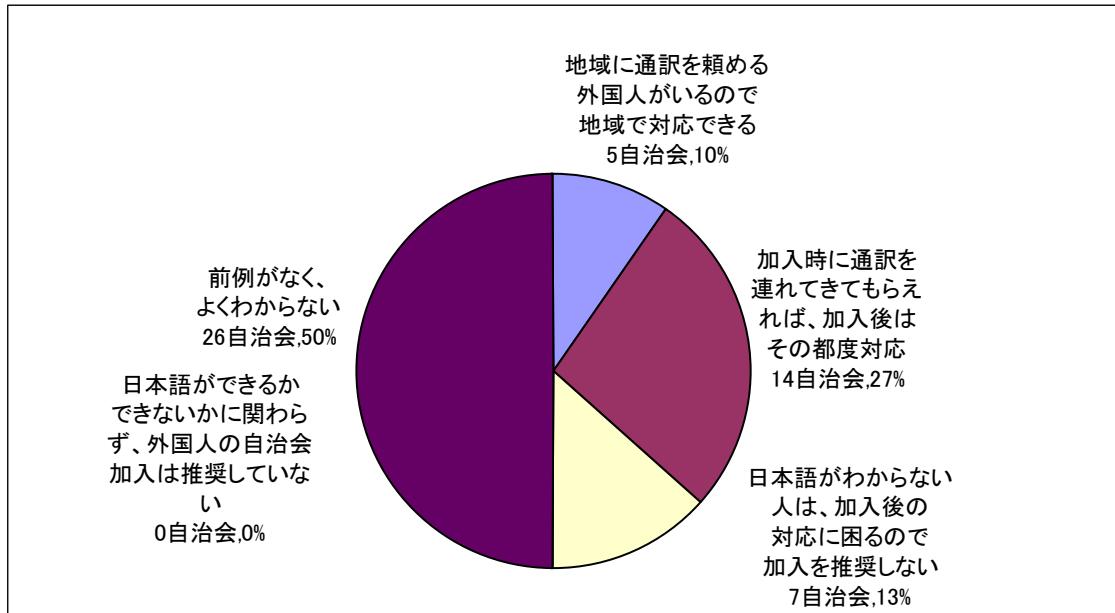
#### 4) 今後の貴自治会への外国人世帯の加入について



「積極的に加入してもらいたい」や「希望があれば加入してもらってもよい」など外国人世帯の自治会加入を受け入れる回答が63%であった。関連する自治会長の意見として、ゴミの分別の徹底や、日本語が話せることなどが寄せられた。

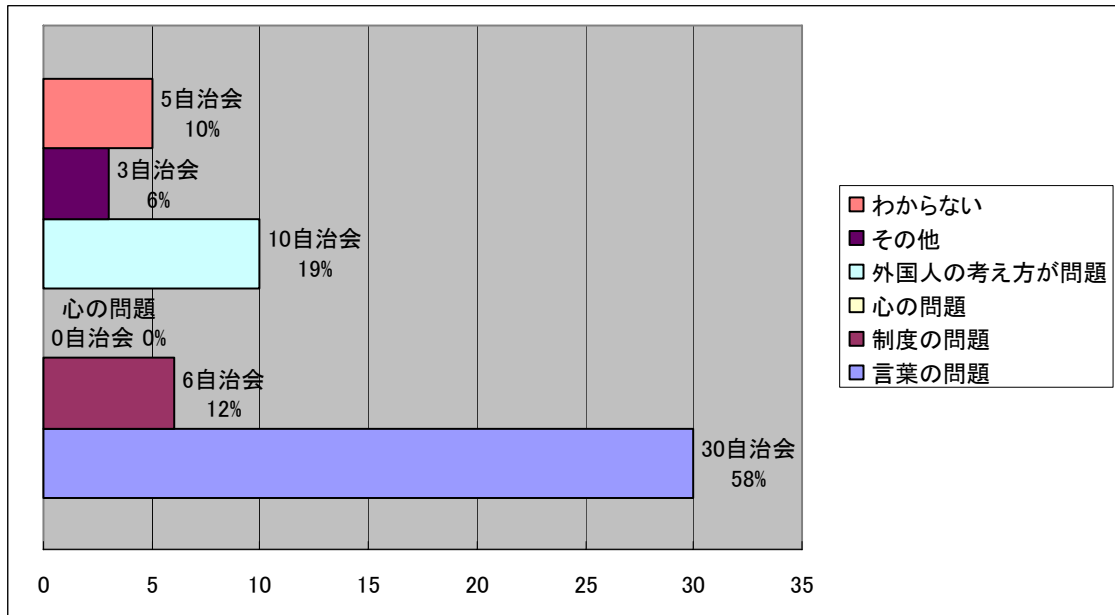


5) 外国人が自治会加入を希望した場合に貴自治会でできる対応について



4) では 33 自治会が外国人世帯の自治会加入について受け入れに理解を示したが、地域で対応が可能なのは 5 自治会（10%）のみであり、現実的な受け入れは難しい状況にある。ただし、加入時の通訳対応や外国人世帯の日本語対応能力によって、26 自治会（50%）が受け入れ可能となる。

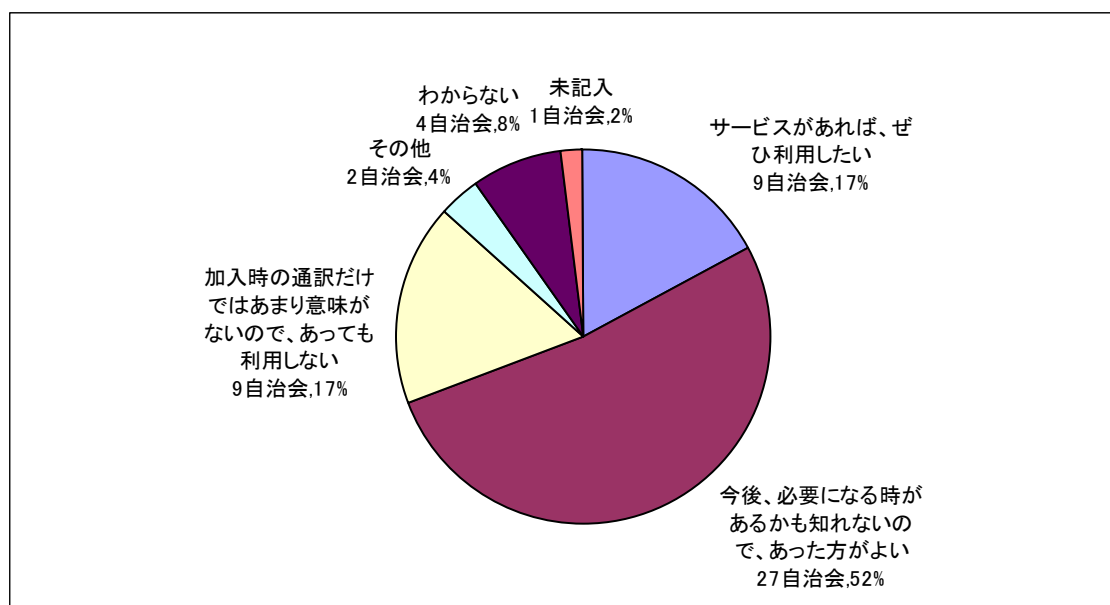
6) 外国人の自治会加入について何が一番問題だと思いますか



「言葉の問題」と回答した自治会が 58%。次いで「外国人の考え方」が 19%、自治会規約などの「制度の問題」が 12%であった。日本人側の外国人住民に対する思い込みなど「心の問題」と回答する自治会は無かった。自治会長の意見として、「加入自体必要か？」

や「(外国人世帯の) 子どもに通訳をしてもらっている」、「会費や募金など、特に金銭的なことが理解できない」などがあった。

## 7) 自治会加入の説明時に通訳を派遣するサービスについて



5) において「加入時に通訳を連れてきてもらえれば、加入後はその都度対応する」と回答した自治会は14自治会であったが、本質問で「サービスがあれば、ぜひ利用したい」や「今後必要になる時があるかもしれないのであった方がよい」とする回答は36自治会(69%)から寄せられた。自治会長の意見として、「外国人世帯の日本文化の理解度に問題がある。通訳を介して一時的に自治会に加入しても、行事を理解して積極的に参加してもらえるか不明。日本人でも負担が難しい自治会費を外国人に払ってもらえるのか？」などがあった。

## 2 定住外国人の地域交流に関するアンケート調査

### 調査結果【要約】

回答者の国籍は、ブラジル人世帯が83%とほとんどであり、次いでフィリピン人世帯、中国などその他国籍の世帯はごく少数であった。在留資格については、「永住者」が60%と最も多く美濃加茂市滞在年数も5年以上の外国人世帯が52%に達しており、この地域における外国人の定住化の進行を垣間見る結果となった。彼らの日本語能力についても、自己評価ではあるが、「聞く・話す・読む・書く」という能力全てにおいて、半数以上は、一定レベルの日本語能力を有しているという回答が寄せられた。それぞれの日本語能力において全くできないと回答した人数を基準に考えると、外国人にとって日本語の読み書きは、聞いたり話したりすることよりも難しいという傾向が見受けられた。

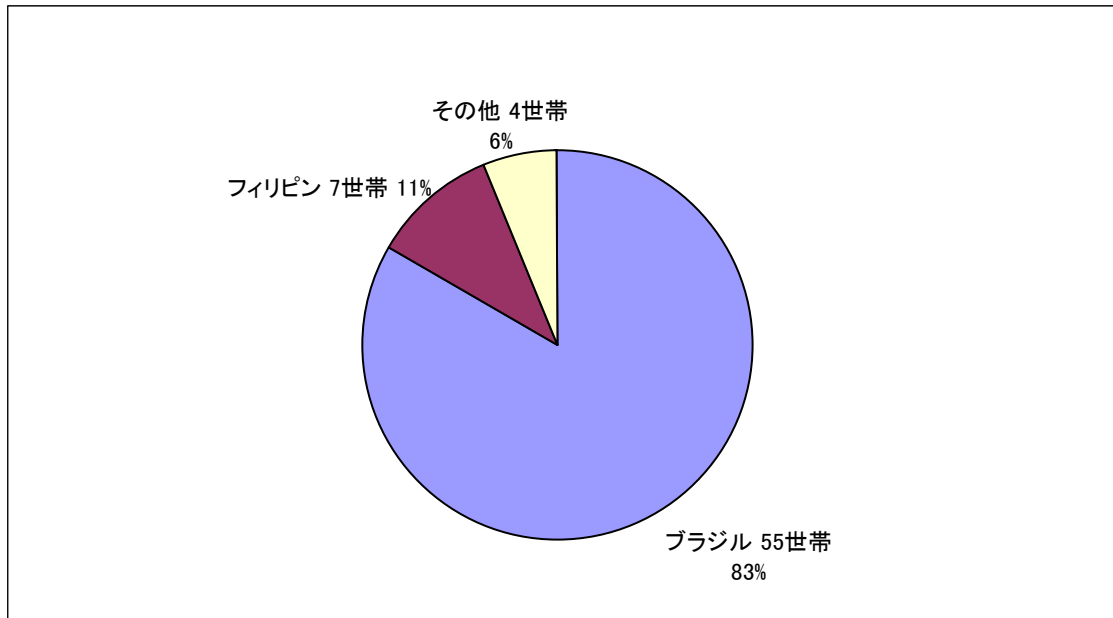
家族構成については、祖父母と同居しているケースは稀で外国人世帯においても核家族がほとんどであると考えられる。

彼らの住んでいる家については、「自分で借りたアパート」が59%で最も多かったが、デカセギという言葉から連想される「会社の寮やアパート」という回答が0であった一方、借家や持ち家などの1軒家という回答が37%に達した。しかしながら、自治会や子ども会への加入については86%が未加入であり、さらに自治会と子ども会両方に加入しているという世帯はわずか5%にとどまり、1軒家を構えて子どもが地域の学校や保育園に通うというような定住化は進行しつつも、地域との交流という面ではまだまだ課題が残る結果となった。

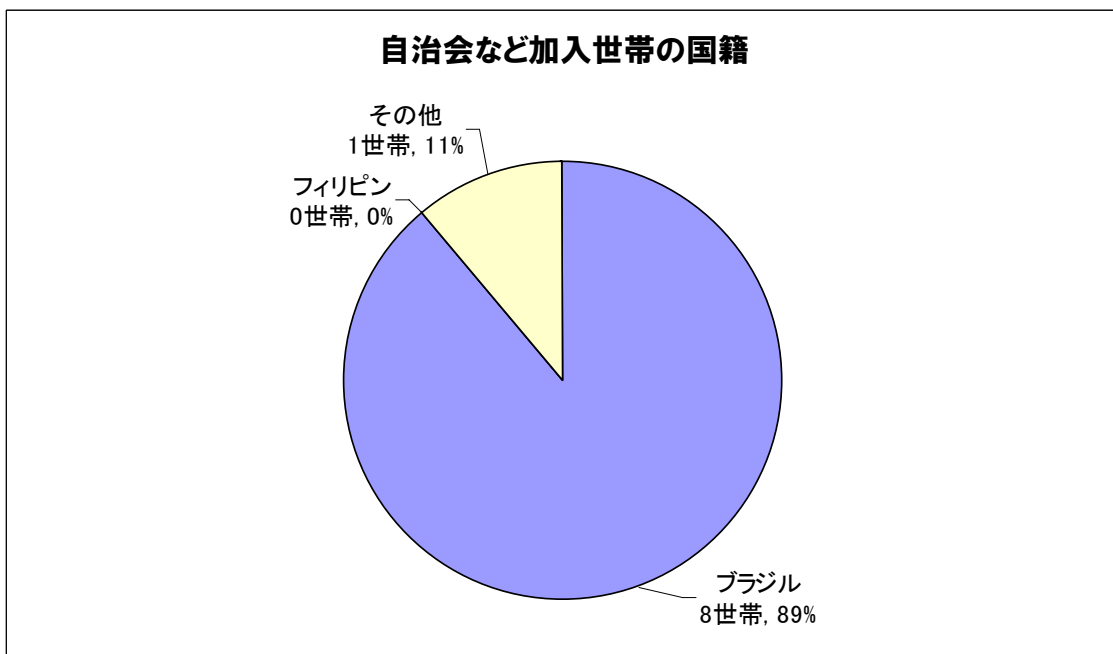
外国人が自治会や子ども会に加入していない理由は、「自治会や子ども会のことを知らないから」という回答が59%と最も多く、次いで日本語能力や知り合いがいないことなどが回答として多かった。この質問に対し、「メリットが無いから」を選択する外国人世帯がほとんど無かったことや、続く質問において自治会や子ども会の説明会について「聞いてみたい」という回答や、地域との交流について「現在は交流していないが、今後、機会があればなるべく交流したい」という回答がそれぞれ最も多く選択されていることは、今後、外国人世帯の自治会加入を推進しうる可能性を示している。しかしながら、今後も「日本に住み続けたいですか」という質問に対し、「まだ決めていない」や「仕事が無ければ帰国する」など、必ずしも永住を前提としていない外国人世帯も全体の60%を超えており、定住外国人の地域交流については、永住を前提としつつ1軒家などの定住環境を整えた外国人世帯などを対象に取り組んで行くことが望ましいと考えられる。

**調査結果**※四捨五入や複数回答により合計が 100%を超える場合があります。

1) 国籍について

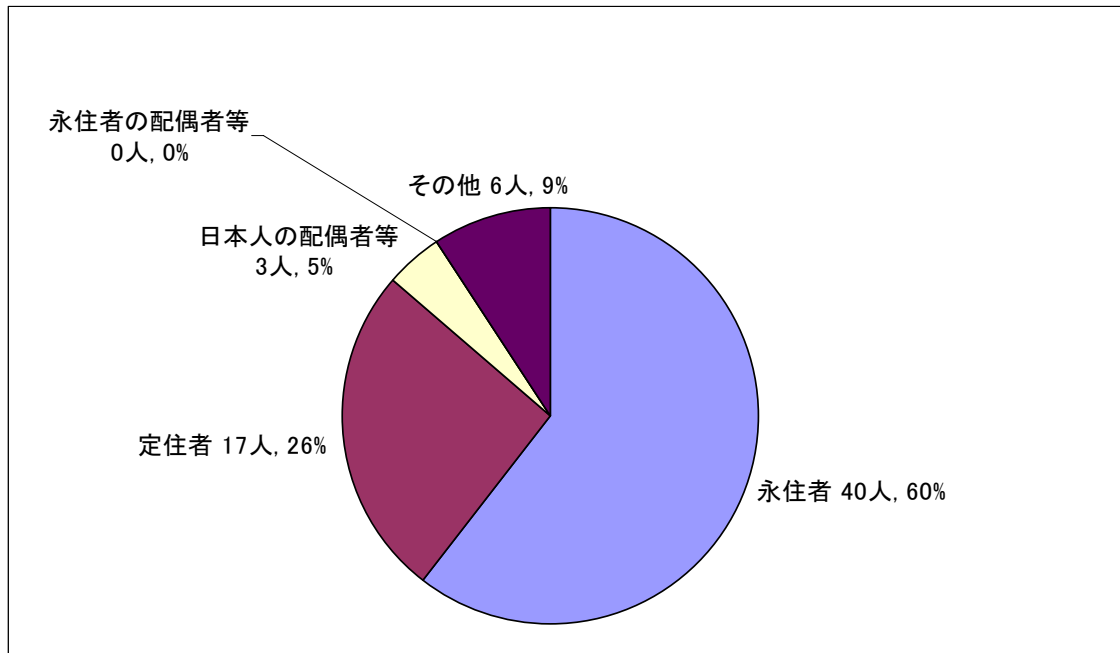


今回調査対象とした外国人世帯 9 4 世帯に配布した調査用紙はポルトガル語が 8 2 枚（8 7 %）と英語が 1 2 枚（1 3 %）で、回答を得た 6 6 世帯についても、国籍はブラジルが 8 3 %、フィリピンが 1 1 %、その他 6 %と調査用紙の割合に順じた結果となっている。

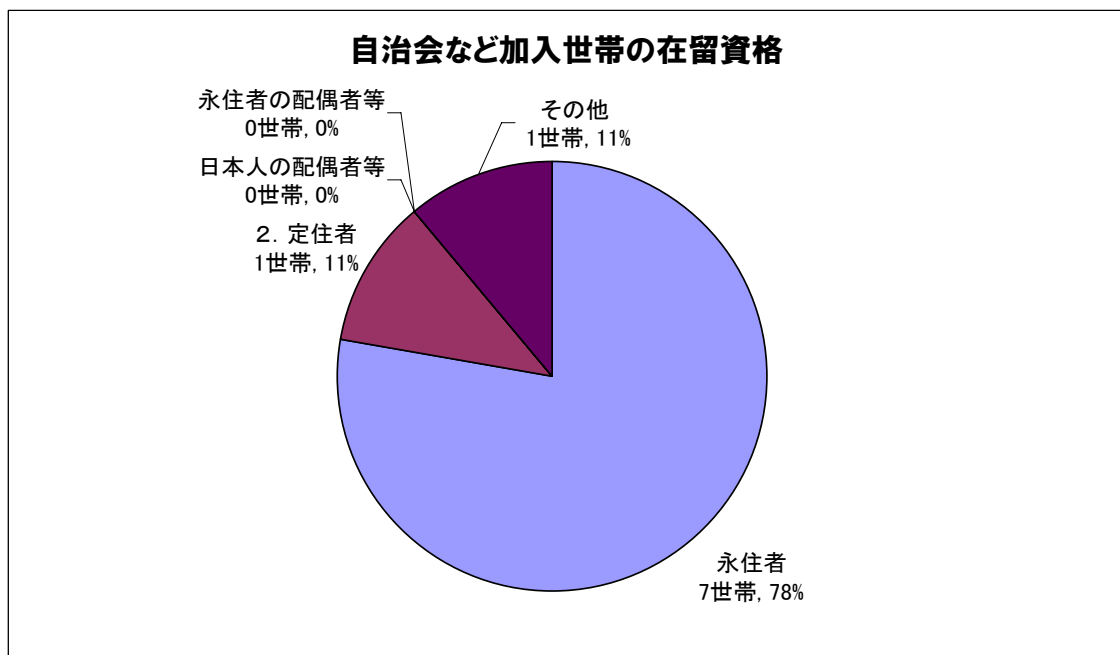


後述の 7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯 9 世帯のうち、8 世帯がブラジル籍、1 世帯が中国籍である。フィリピン人世帯の自治会加入実績は無かった。

## 2) 在留資格について

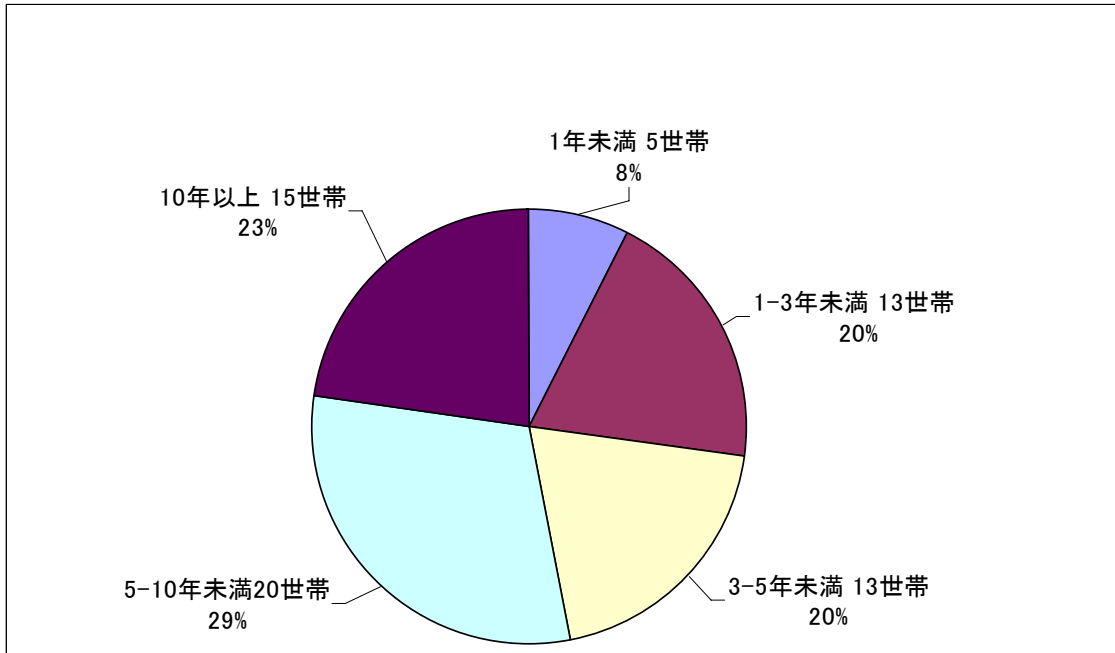


「永住者」が40人（60％）と最も多く、次いで「定住者」の17人（26％）、「日本人の配偶者等」が3人（5％）と続く結果となった。

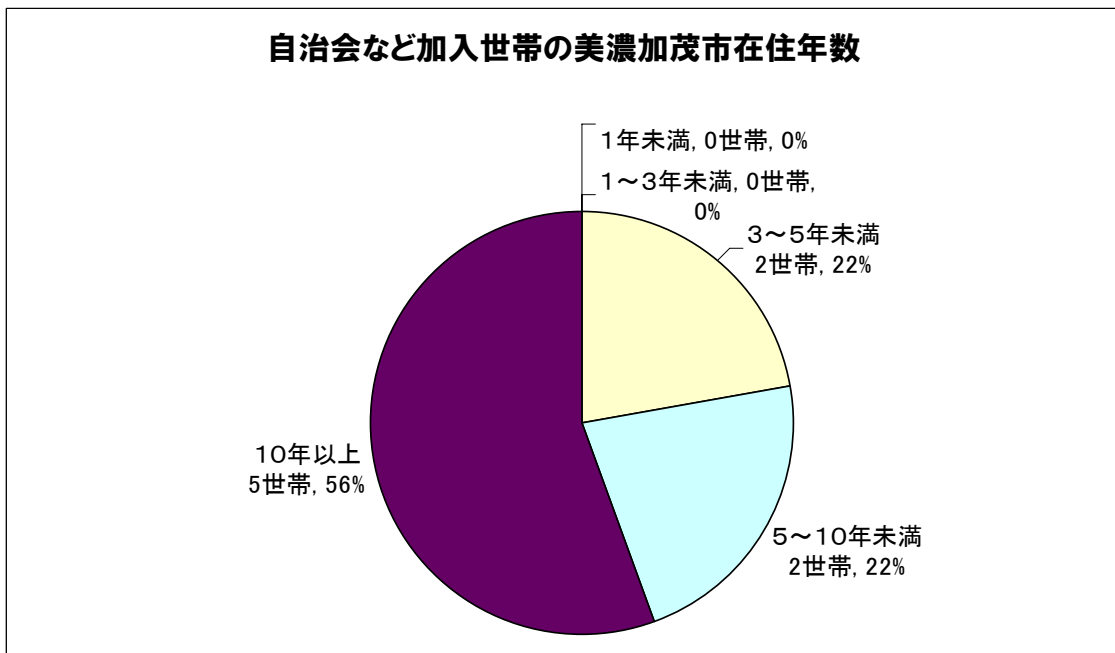


後述の7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯9世帯では、「永住者」が7世帯（78％）、「定住者」が1世帯（11％）、「その他」1世帯（11％）という結果であった。

### 3) 美濃加茂市在住年数について

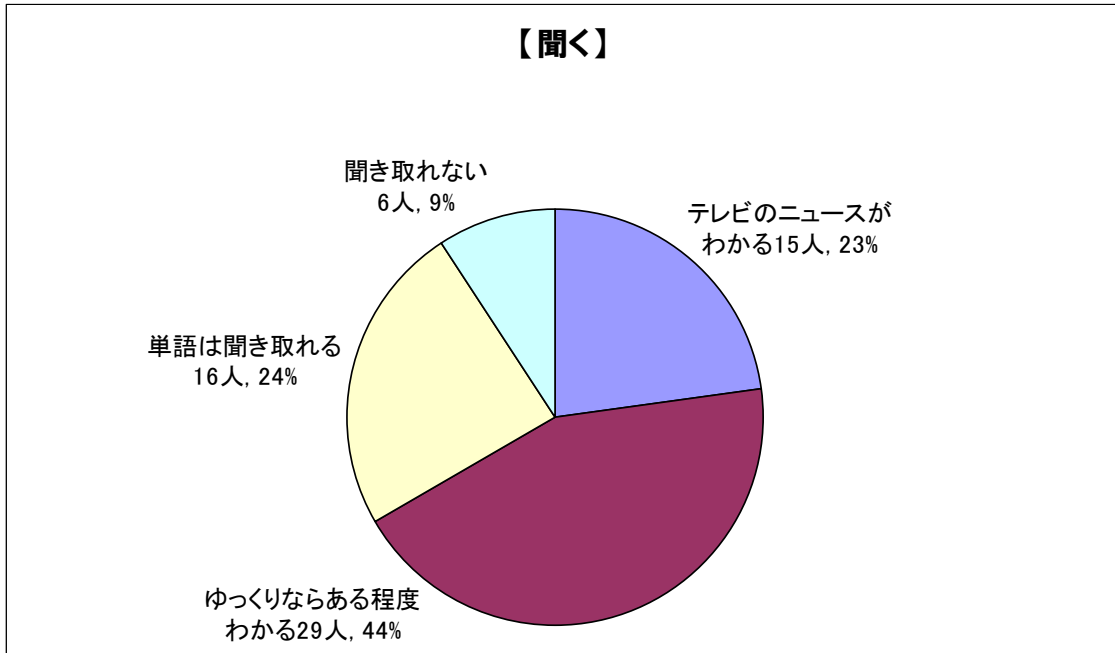


「5-10年未満」が最も多く、次いで「10年以上」、「3-5年未満、1-3年未満」、「1年未満」であり、全体的に長期在住が目立つ結果となった。

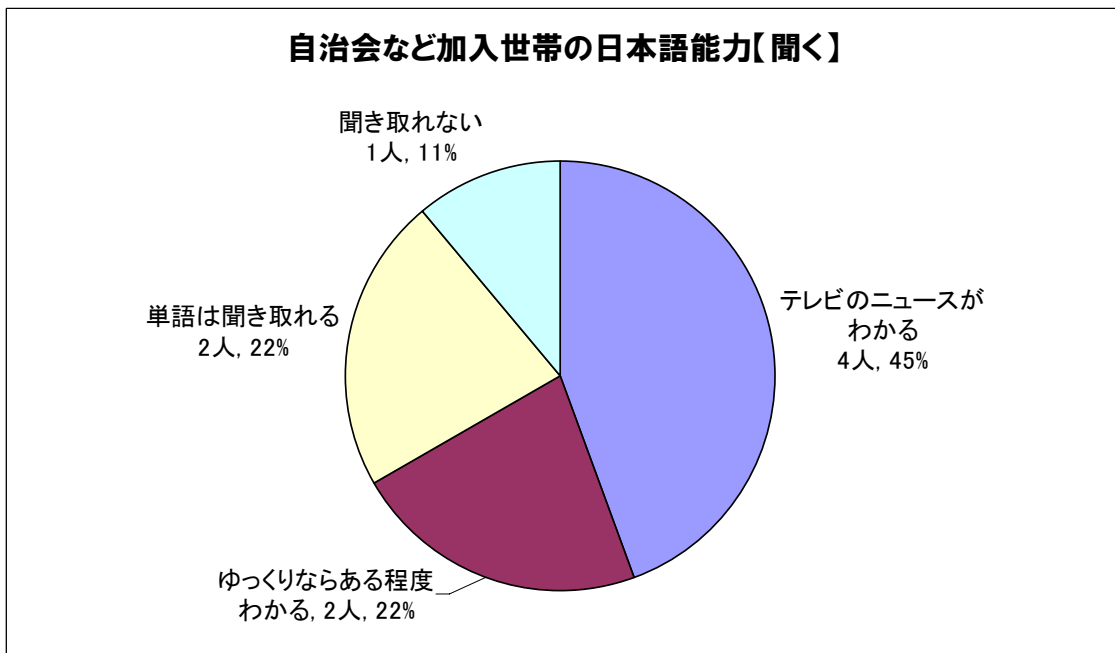


後述の7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯9世帯の在住年数の内訳は、「10年以上」が5世帯（56%）と最も多く、「5-10年未満」と「3-5年未満」は共に2世帯（22%）ずつで、「1-3年未満」と「1年未満」は0という結果であった。

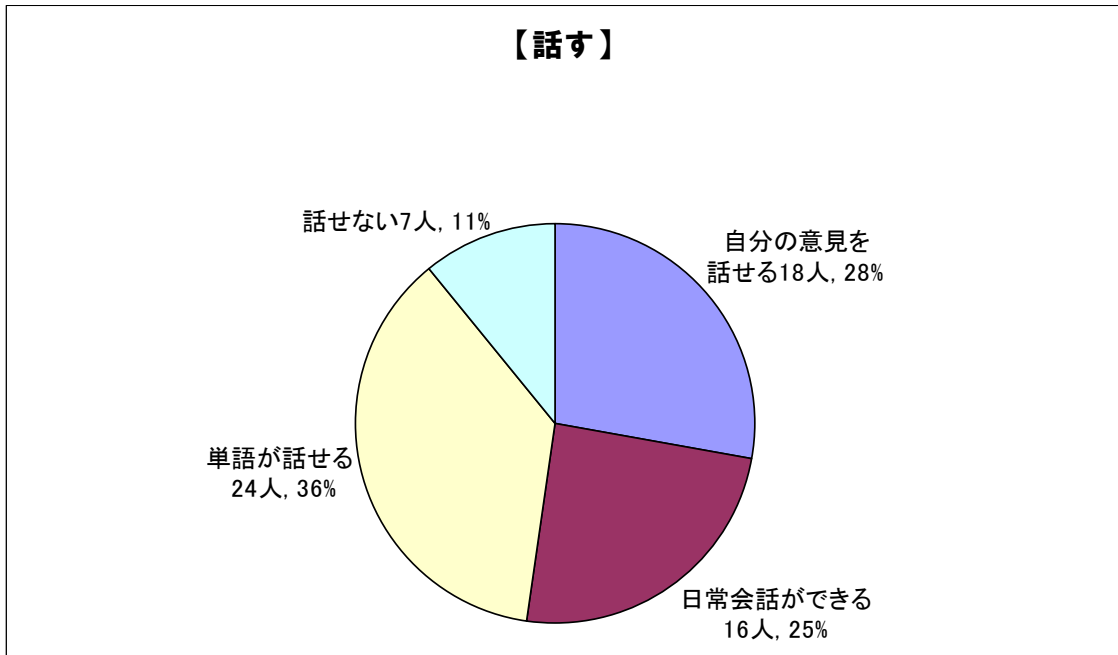
#### 4) 日本語の能力について



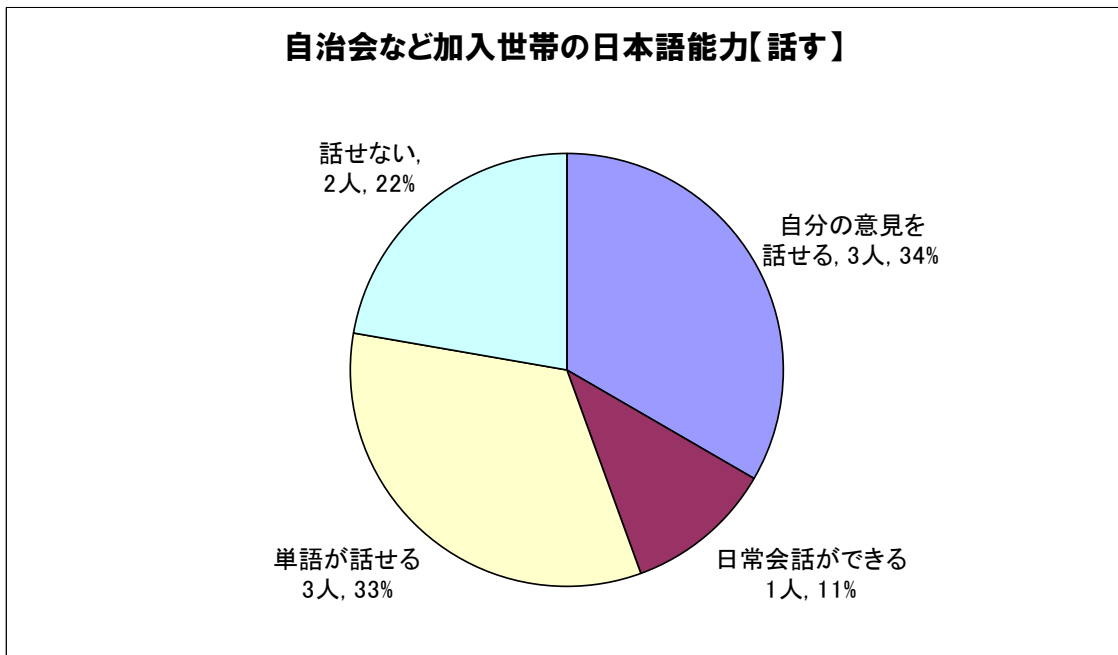
「テレビのニュースがわかる」や「ゆっくりならある程度わかる」を合わせると67%は、日常生活の中で日本語によるコミュニケーションや情報収集ができると考えられる。



後述の7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯9世帯の日本語を聞く能力の内訳は、「テレビのニュースがわかる」4世帯(45%)、「ゆっくりならある程度わかる」、「単語は聞き取れる」共に2世帯ずつ(22%)、「聞き取れない」1世帯(11%)という結果であった。

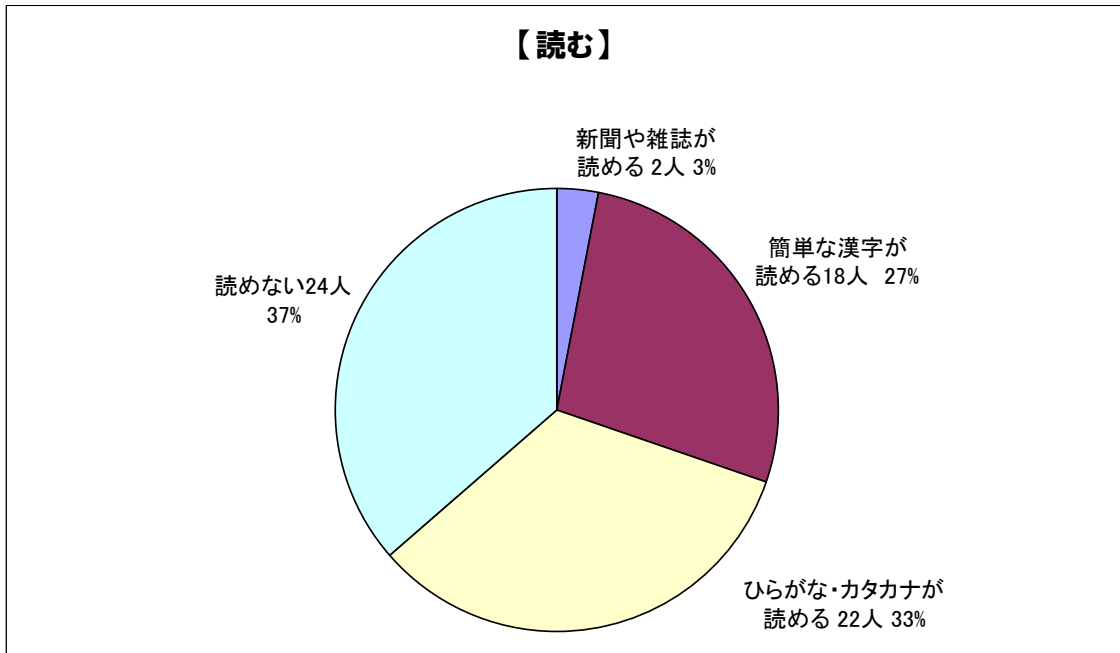


「自分の意見を話せる」や「日常会話ができる」など53%は、日本語による受け答えができると考えられる。

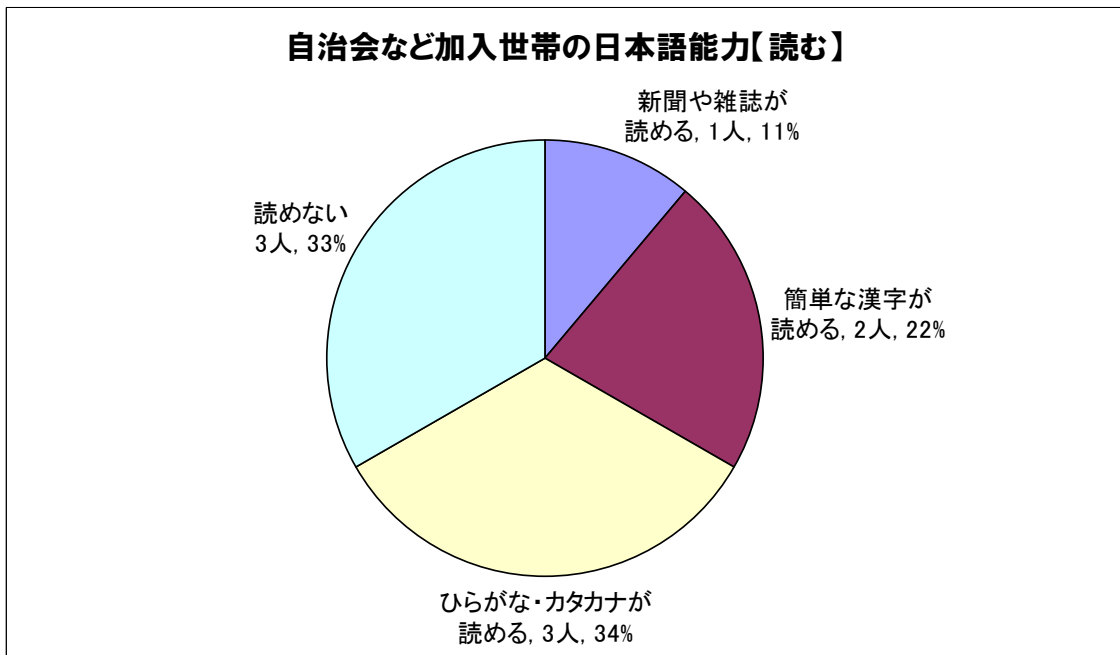


後述の7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯9世帯の日本語を話す能力の内訳は、「自分の意見を話せる」3世帯(34%)、「日常会話ができる」1世帯(11%)、「単語が話せる」3世帯(33%)、「話せない」2世帯(22%)という結果であった。

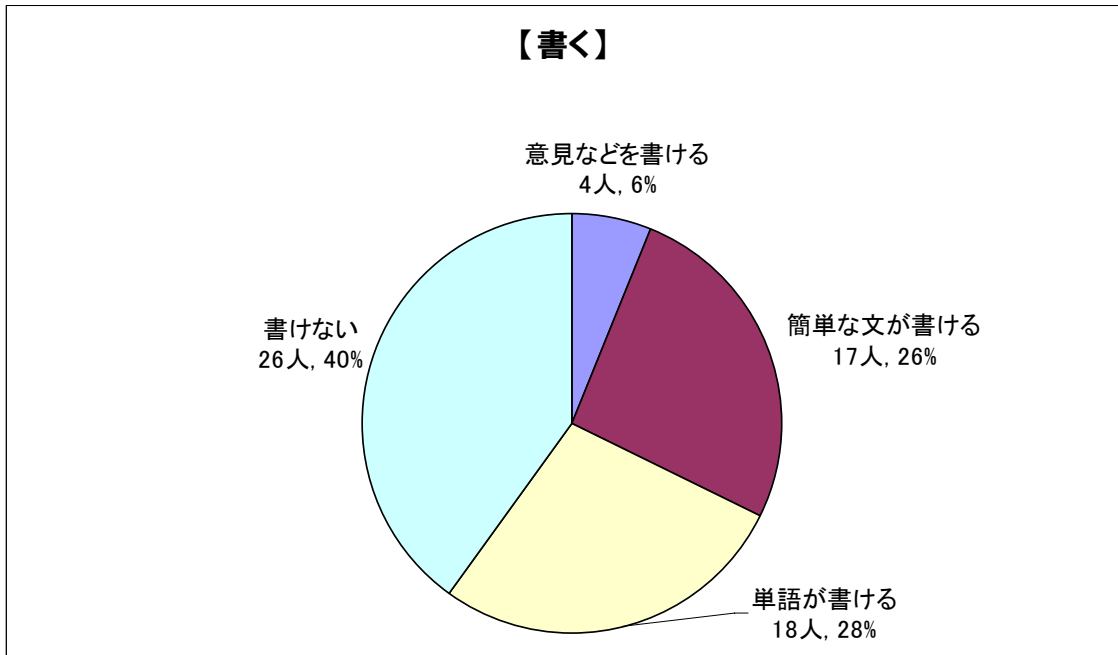




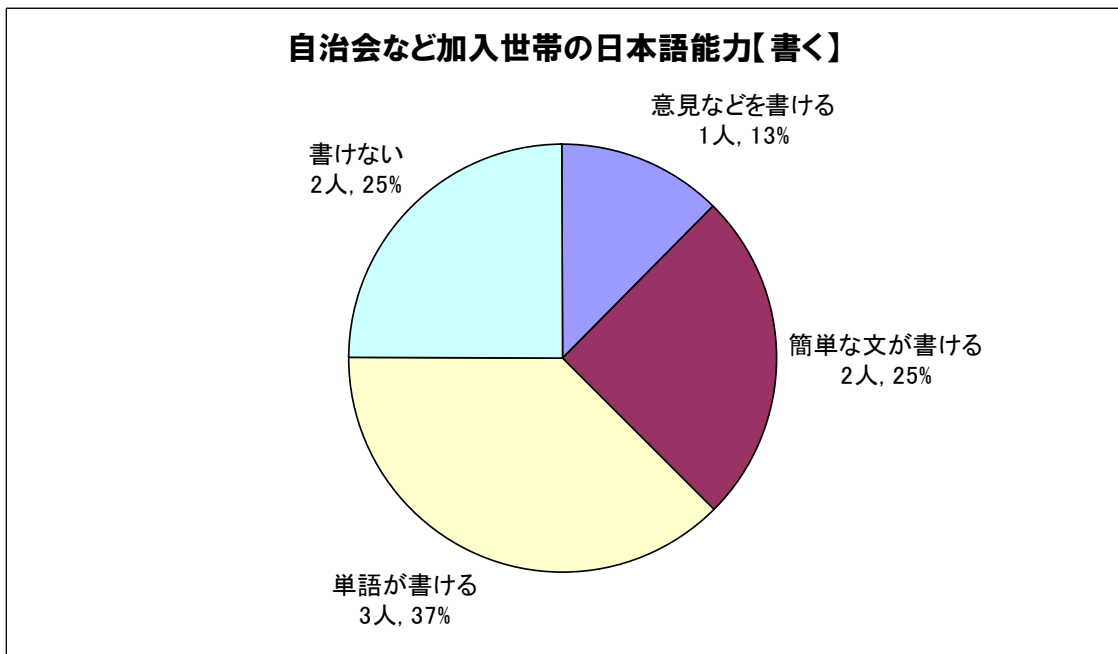
前述の「聞く」や「話す」における「聞き取れない」9%や「話せない」11%と比較すると、「読めない」は37%と多い。



後述の7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯9世帯の日本語を読む能力の内訳は、「新聞や雑誌が読める」1世帯(11%)、「簡単な漢字が読める」2世帯(22%)、「ひらがな・カタカナが読める」3世帯(34%)、「読めない」3世帯(33%)という結果であった。

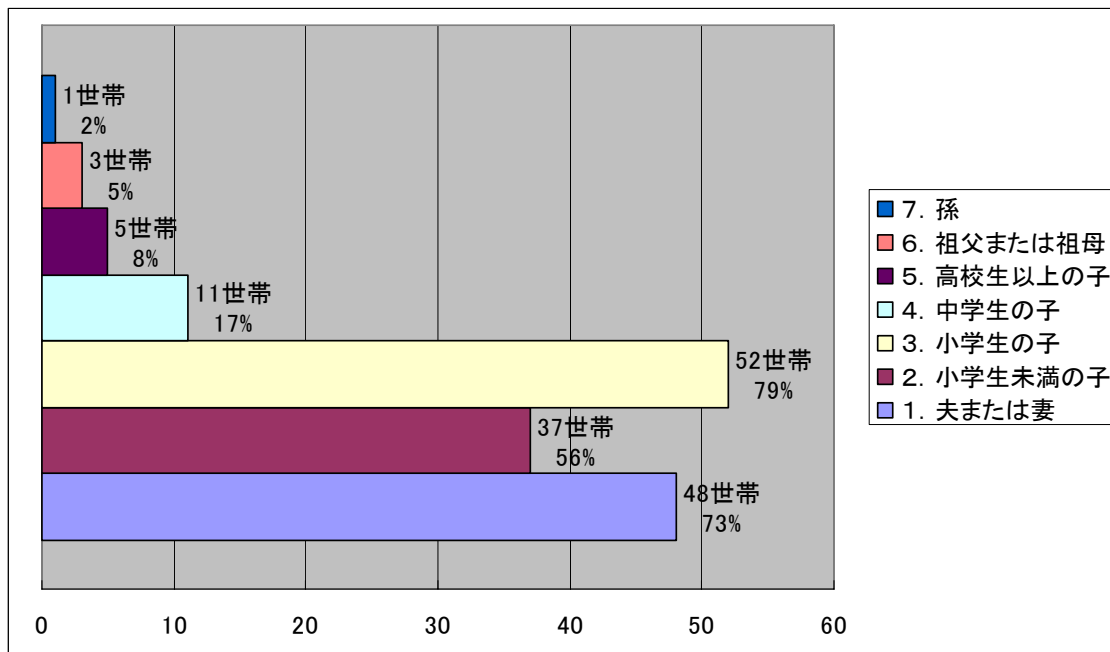


前述の「読む」の場合と同じく「聞く」や「話す」における「聞き取れない」9%や「話せない」11%と比較すると、「書けない」も40%と多い。「読む」や「書く」という日本語能力は、外国人市民にとって習得が難しい傾向が見られる。

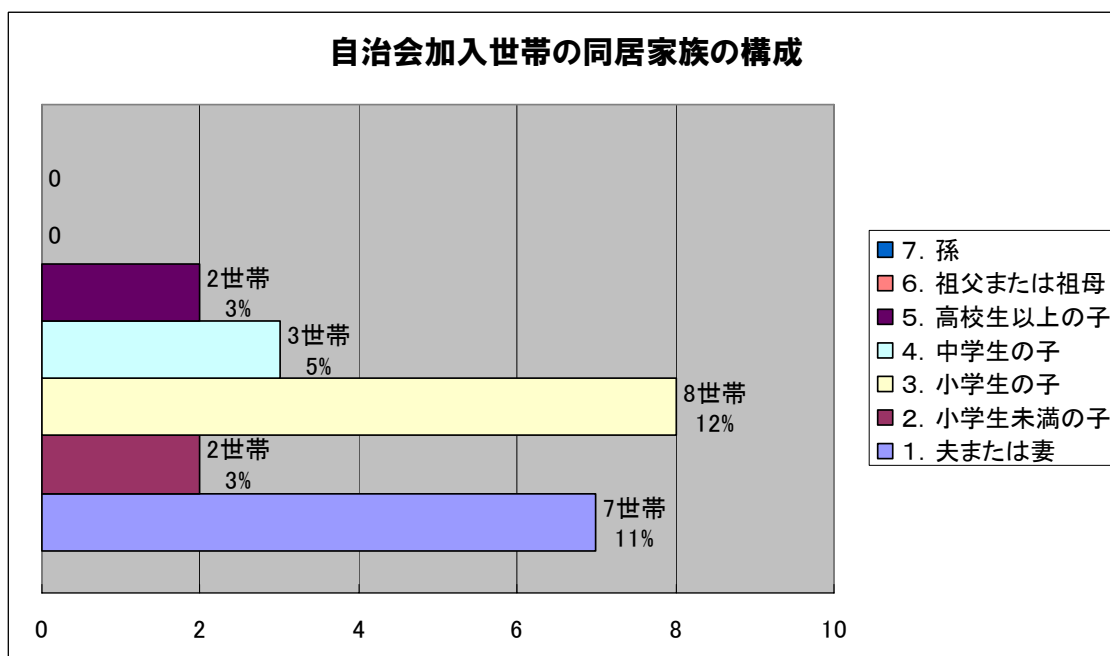


後述の7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯9世帯の日本語を書く能力の内訳は、「意見などを書ける」1世帯（13%）、「簡単な文が書ける」2世帯（22%）、「単語が書ける」3世帯（37%）、「書けない」2世帯（25%）という結果であった。

## 5) 家族構成について

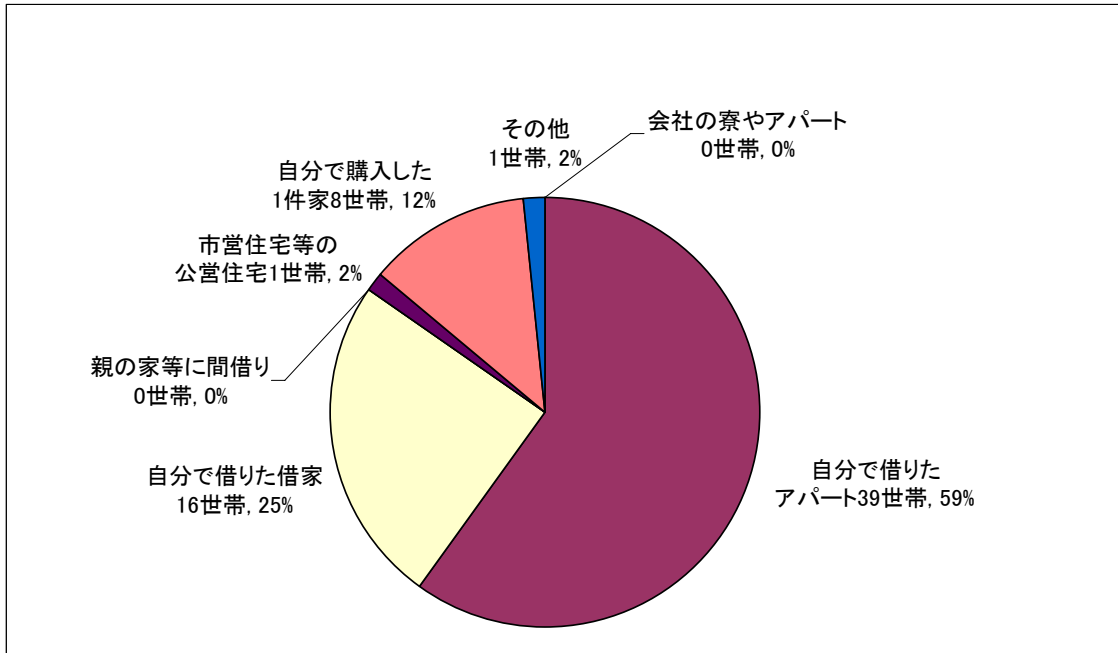


「高校生以上の子」や「祖父又は祖母」、「孫」との同居を回答した世帯は少なく、核家族が多い。全66世帯中「夫または妻」と答えた世帯が48世帯しかなく、27%は両親のどちらかまたは同居していない状況である。

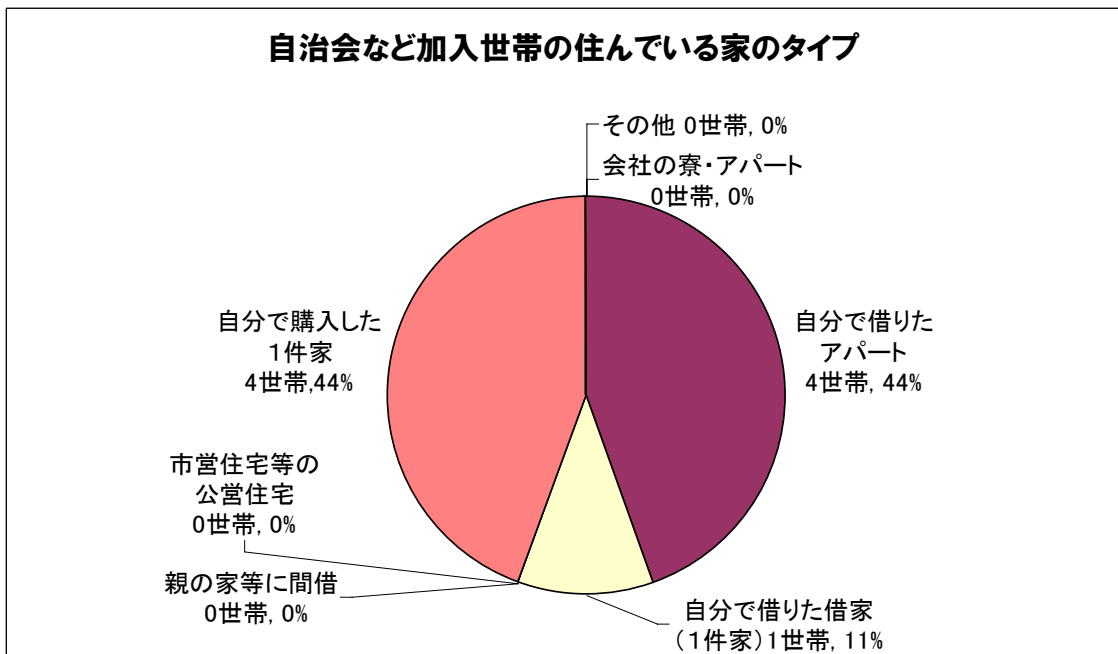


後述の7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯9世帯は核家族である。

## 6) 住んでいる家のタイプについて

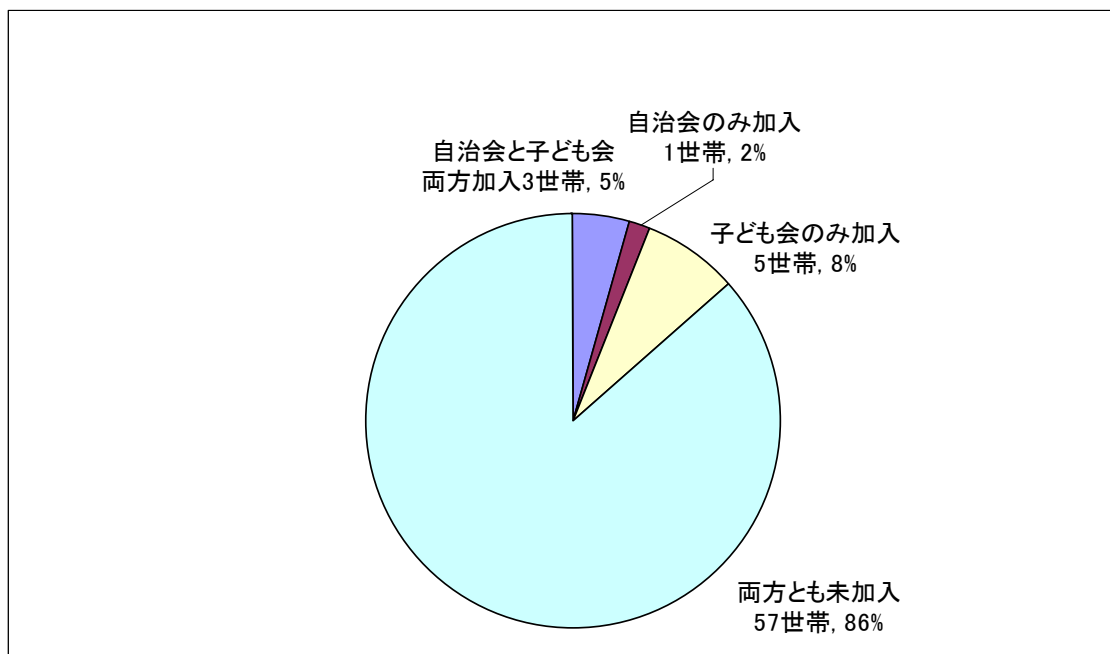


「自分で借りたアパート」が59%と最も多いが、「自分で購入した1件家」や「自分で借りた借家」など一戸建ての居住割合が37%に達していること及び「会社の寮やアパート」という回答が皆無であったことから、外国人住民の定住化の進行が伺える。



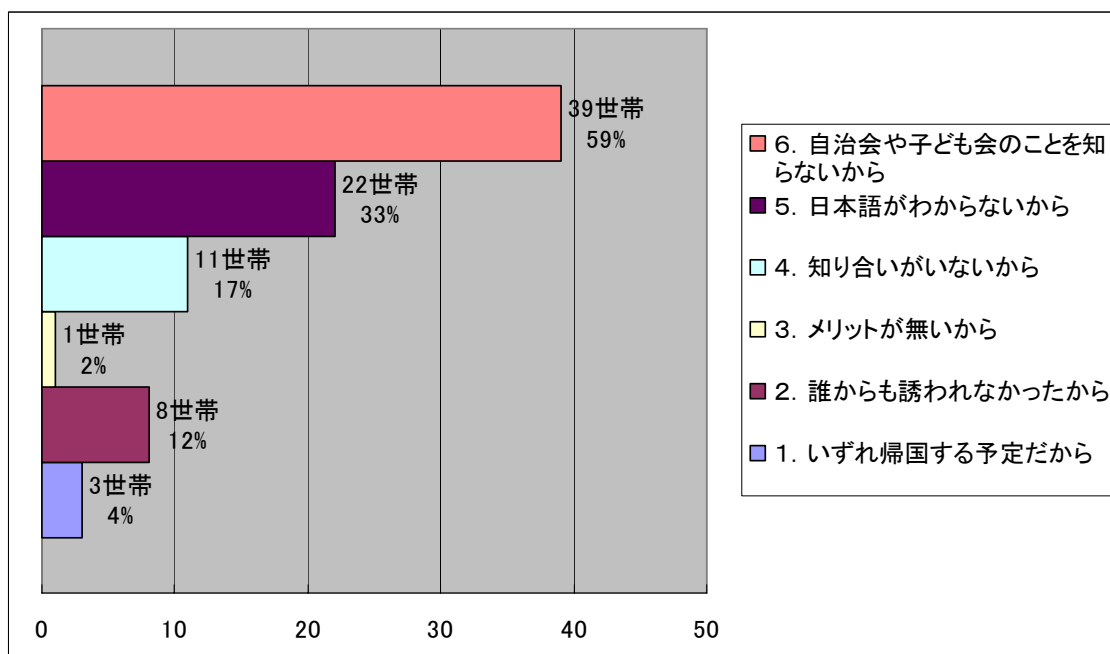
後述の7) による自治会や子ども会に加入している外国人世帯9世帯については、「自分で借りたアパート」4世帯(44%)、「自分で借りた借家」1世帯(11%)、「市営住宅等の公営住宅」0世帯(0%)、「自分で購入した1件屋」4世帯(44%)、「その他」0世帯(0%)であった。

## 7) 自治会や子ども会への加入状況について



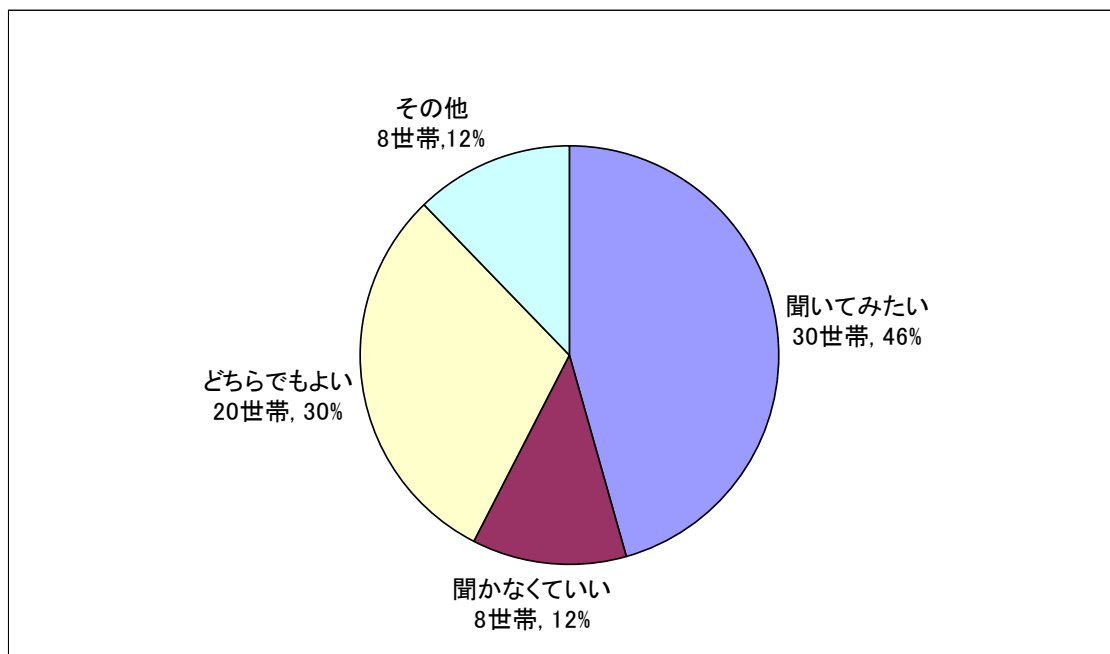
86%は自治会も子ども会にも未加入であった。自治会や子ども会に加入している外国人世帯の中には、せっかく加入しているながら、日本語や仕組みのことが良くわからずに会費だけを納めているという意見もあった。

## 8) 自治会や子ども会に加入していない理由について

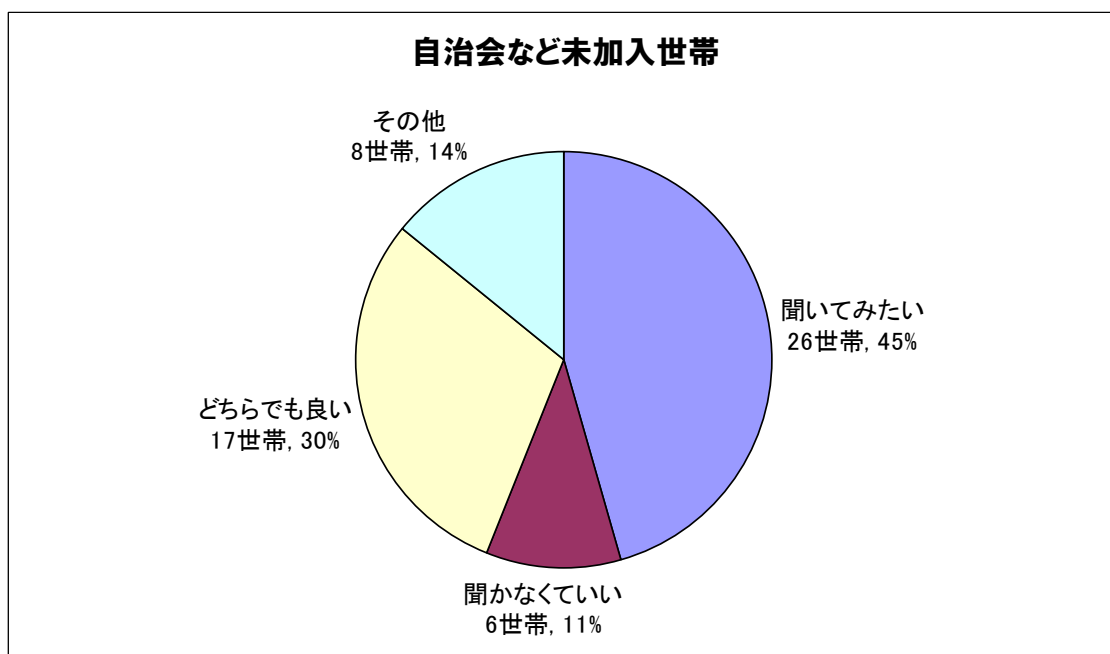


「自治会や子ども会のことを知らないから」や「日本語がわからないから」、「知り合いがいないから」、「誰からも誘われなかったから」など、情報不足を主な理由として回答した外国人が多かった。

## 9) 自治会や子ども会の説明について

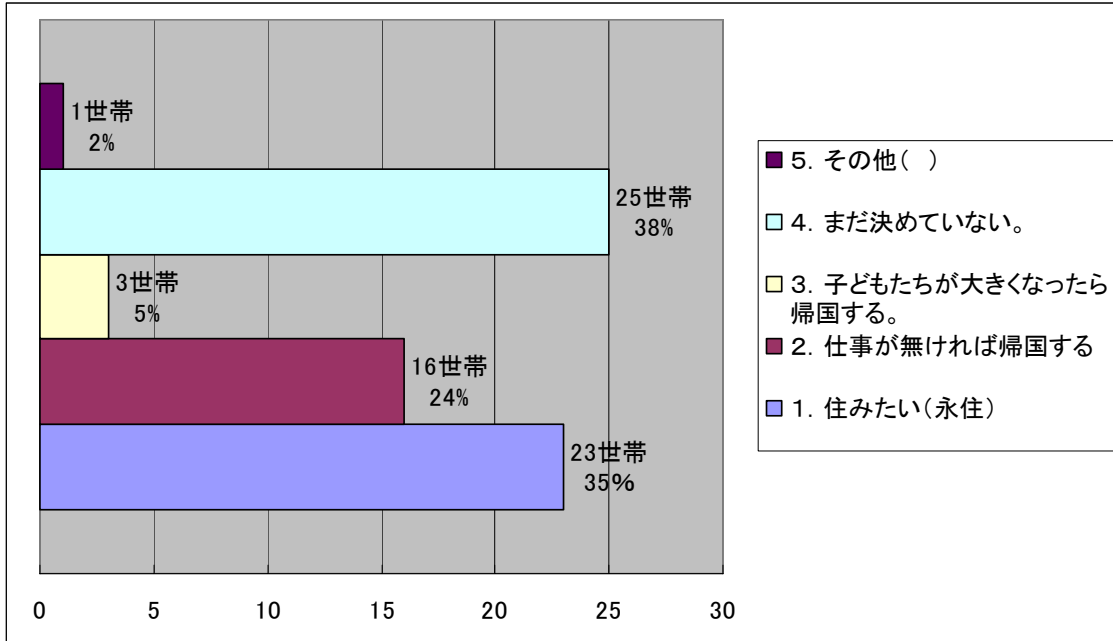


約半数の30世帯(46%)が「聞きたい」と答えており、「聞かなくていい」を大きく上回っている。「その他」の意見としては、「時間が無い」という理由が多かった。

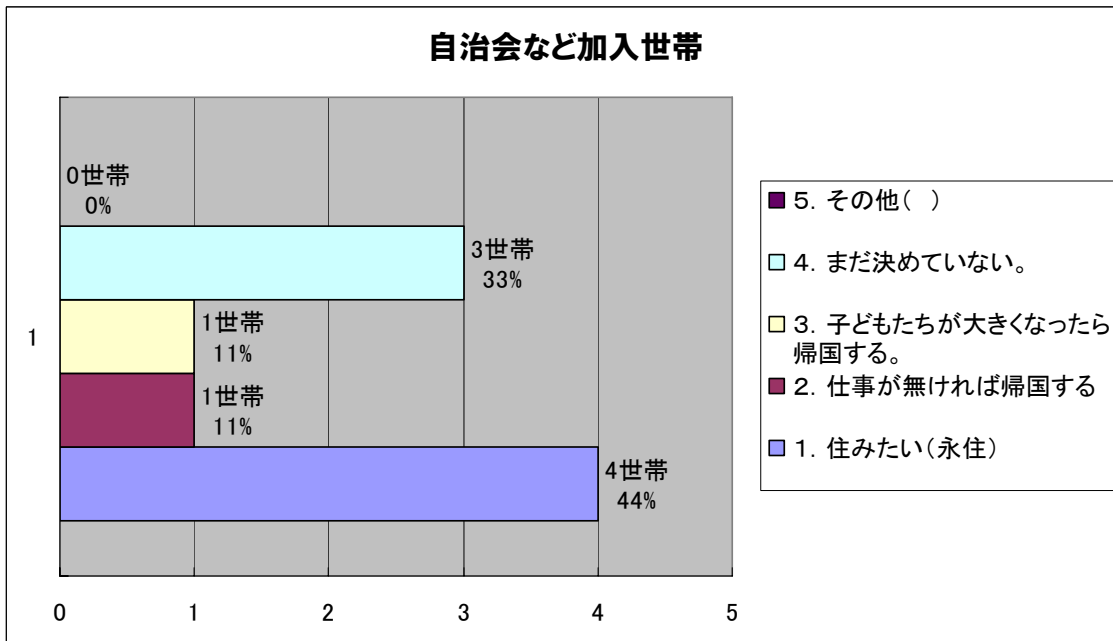


7) において自治会も子ども会も未加入であると回答した57世帯でも、「聞きたい」が26世帯で、「聞かなくていい」という回答を大きく上回っており、地域参画への関心が伺える。

## 10) 日本での永住希望について

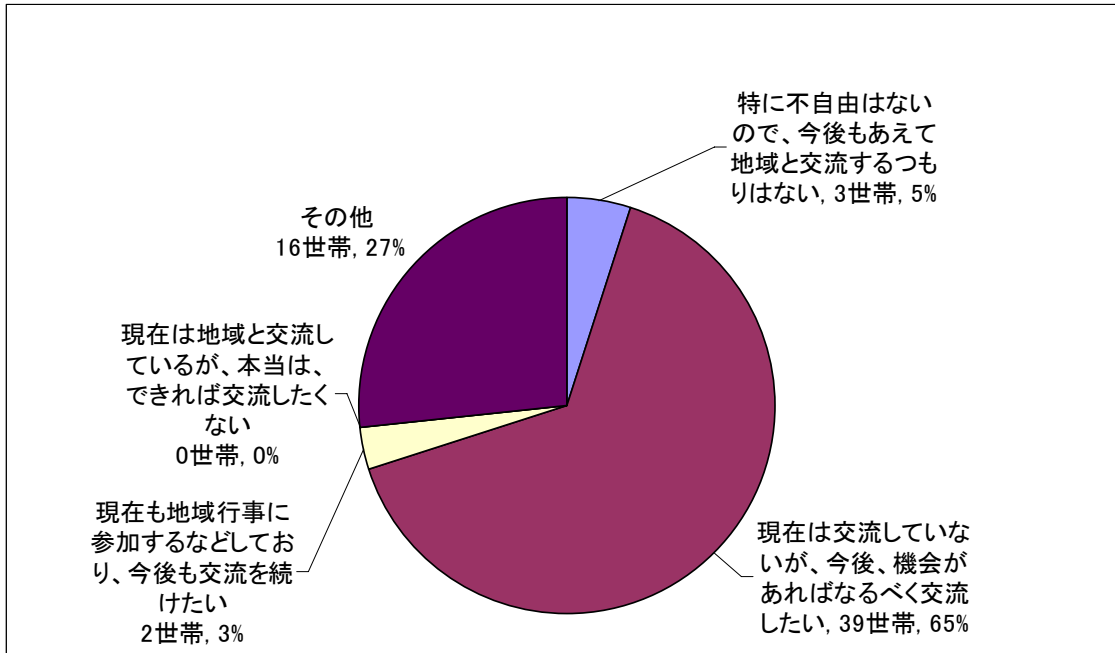


外国人の定住化が進行する一方で、「まだ決めていない」や「仕事が無ければ帰国する」といった回答も62.12%と未だ多く寄せられる結果となった。

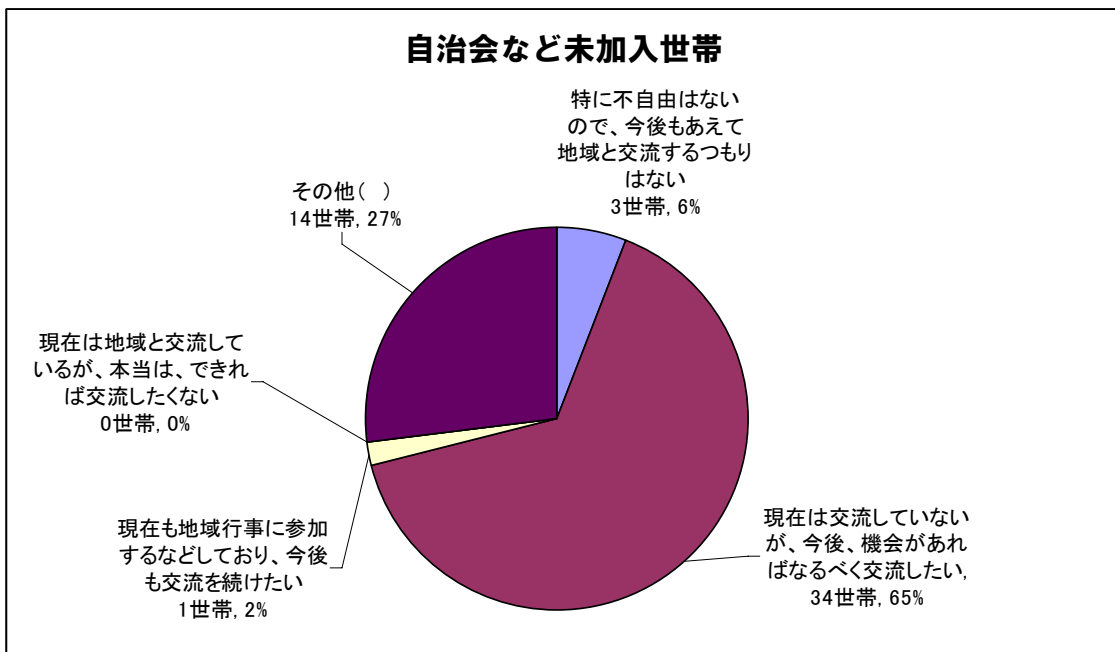


自治会や子ども会に加入している外国人世帯においても「まだ決めていない」や「仕事が無ければ帰国する」、「子どもたちが大きくなったら帰国する」などの帰国の可能性を含む回答を選択している。8)の結果にも現れているように、帰国の可能性自体は、外国人世帯の自治会加入などに対する大きな障害ではないのかもしれない。

## 11) 地域交流に対する考え方について



「特に不自由はないので、今後もあえて地域と交流するつもりはない」や「現在は地域と交流しているが、本当はできれば交流したくない」などの交流を望まない回答を選択した3世帯（5%）のみであったのに対し、「現在は交流していないが、今後、機会があればなるべく交流したい」や「現在も地域行事に参加するなどしており、今後も交流を続けたい」といった交流を望む回答が68%であった。「その他」の意見としては、教会などのコミュニティに参加しており、他のコミュニティと関わる時間が無いといったものや地域交流という概念自体がわからないといったものがあつた。



自治会や子ども会に加入していない外国人世帯でも、交流を望む回答は67%あつた。